

平成29年度 八頭高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

八頭高校は、生徒信条「真摯明朗」「克己盡力」の校風を継承し、①知性を養い、真理の探究に努める ②道義を重んじ、人格の形成に努める ③心身を鍛え、気力の高揚に努める を不易の教育方針と定めている。同時に、管理職は生徒や学校の現状、実態等の内部や外部の環境についてSWOT分析を行い、社会の変化に対応した学校のミッション、中長期目標や重点目標を設定し、教職員にわかりやすい全体像（グランドデザイン）を提示して、目標達成に向けて適切なリーダーシップを発揮している。また、必要に応じて「今年度の重点目標」や「自己評価の評価項目」を毎年見直ししており、常に重点化を図っている点は、本評価制度を活かした理想的な学校経営であると考えられる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 八頭高校体験入学、八頭高ライフ体験、八頭タワープロジェクト、「スクラム教育」として授業相互参観や小中高合同研究授業による授業改革等、小中高が連携してこうした事業に取り組んでいる。
※八頭高ライフ体験：中学2年生が高校生活を模擬体験することを通して高校生活の全体像を具体的にイメージする機会を提供し、八頭郡内中学生の高校進学への意欲を高め、中学生生活最終年度の充実を図る学校独自の取組。
※八頭タワープロジェクト：県事業であるスクラム教育が平成28年度で終わったため、中高連携を一層充実させて授業力向上と学力向上を図る学校独自の取組。
- ② 学校行事をはじめ「八頭高愛し愛され運動」等の活動を通して、生徒同士の助け合い、支え合う風土ができています。生徒達は、書道、吹奏楽演奏等の出張パフォーマンスによる地域貢献、東日本大震災被災地を訪問した生徒会執行部による発表等を通じて、社会の一員としての意識や自己有用感を高めています。
※八頭高愛し愛され運動：生徒会が主体となって地域へのボランティア活動や校内での美化運動をすることにより、地域から愛される八頭高校づくりを目指した学校独自の取組。
- ③ TEAS委員会の「TEASだより」発行やマイボトル運動、校外清掃、ごみ箱の廃止等を呼び掛け、環境配慮意識の向上に努めている。また、生徒保健委員会が、日々の保健活動、生活リズムの確立に向けて、スマホ利用時間調査、マイボトル調査、健康観察に積極的に関わっている。そして、両委員会とも調査するだけでなく、SHR（ショートホームルーム）、環境・保健LHR（ロングホームルーム）等で呼びかけを行っている。その結果、平成29年度マイボトル運動の持参率は95%となっており、こうした生徒の主体的な取組は模範的な取組である。
※TEAS：Tottori Environmental Audit and Scheme（鳥取県版環境管理システム）。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 進路に関する悩み等について、生徒の進路意識の高揚と学力・意欲向上をキーワードに具体的な対策を講じる必要がある。
- ② 現在、学校にはタブレットが40台しかないため、3学級分の台数を確保したいと要望している。また、利用環境として無線LANの構築も急務であると考えられる。
- ③ 学校は、今まで以上に「関係者の声を反映した地域社会から信頼される学校づくり」を目指すのであれば、八頭町・若桜町・智頭町の各自治連合会の会長、副会長等から学校に対する要望や意見を聞く懇談会を設定されることを期待する。